

沖縄キリスト教短期大学報

那霸市首里当蔵町, 3-6-1
沖縄キリスト教短期大学
電話 (0988) 87-5161
発行人 学長 大城 実
編集人 事務局企画課

本短大には、留学を希望する皆さんのために留学委員会があり、留学についての相談、助言、留学手続きの指導を行い、毎年多くの留学生を主にアメリカやイギリスに送り出しています。

留学がかつてはエリートだけの特権であった時代から、日本の経済力が強くなり、特に昨今の円高の影響もあって、誰でも気軽に留学できる有難いこの世になりました。しかし単なる未知の世界への憧れとか、視野を広めたいという漠然とした目的で留学するものが多いように見受けます。

それでこの紙面を拜借して、これから留学する皆さんに、より実り多い留学生活を送って頂くために留学の意義を考えてみたいと思います。題して、「国際化時代における留学の意義」としました。

「国際化時代」という言葉を最近よく耳にします。近年の通信技

り、特に次代を担う若い世代にこれが強く望されます。このような観点から、多くの若い人々が海外に出て、言語、文化、宗教、価値観、生活習慣等を異にする人たちと出会い、語り合う機会をもつことは、きわめて意義のあることです。これまで培ってきた自国の価値観が異国の価値観と出会うことによって、そこから新しい物の見方が生まれてくることが考えられるからです。

します。例えばアメリカに留学しますと、人種、言語、文化、歴史の違う人々が一つの国を形成していますので、日本とは違った様な顔があることに気づくでしょう。黒人差別とか、インディアン、ペルトリコなどの少数民族の人種に対しても實容性をもっているとか、人々の生活の中には強いクリスチヤン精神が生きているとか、画一化された教育を受け集団行動を得意とする日本人の目には、個性を尊重するアメリカ人の行動様式が新鮮なものに映つたりします。さらに、豊かな物質文明の裏側に潜むアメリカの病める側面を発見し、日本のよさを再確認したりすることもあるでしょう。政治の仕組みや教育制度にも異なる点が多いこともあります。留学の目的を単に語学研修から、留学の目的を単に語学研修

る姿などに出会うことは何ものにも替えがたい貴重な体験になるものと思われます。

将来の明確な目標と、その目標を達成しようとする強い意志力、広く目を開いて周囲から学ぼうとする積極さと柔軟さをもって留学生活を送ることができれば、たとえ短い留学期間であっても収穫が多いと思います。

十代後半から二十代という時期は一般的に、思考に柔軟性があり、環境への適応性も高いので留学に相応しい時期です。この時期はまた、これから的人生設計や生き方などについて、将来への期待や夢や希望に胸がふくらんでいる時でもあります。このような時期に留学することによって、幅広い教養と豊かな国際感覚を身につけた人材が沖縄キリスト教短期大学から数多く輩出することを切に期待するものです。

若者よ、大きく羽ばたけ



—国際化時代における留学の意義—

うか。物質に恵まれすぎている日本の若い人たちが親元を離れ、日本を離れて、たとえ短期間であっても外国で生活することによって

や専門分野の研究、特殊技能の修得等に限定せず、その国の文化、歴史、教育等多くのことを学ぶよう心がけたいものです。

第二次一坪獻金感謝報告（1986年8月～1986年12月）

このたびは第二次一坪献金運動に多大のご協力を賜わり、まことにありがとうございました。深く感謝申し上げます。

各界各位の善意の方々が、本短大の運動に関心をお寄せになり、ご協賛の実をお示し下さいましては、本短大にとりまして、大きな支えでございます。理事、教授会、職員一同ますます奮励して、所期の目的達成に邁進いたす決意でございます。

つきましては、第二次一坪献金運動の目標額（2億円）には程遠い状況ですが、お蔭さまで、去る12月末日現在で20%に到達することができました。

しかし、新キャンパス完成までには、まだまだ多額の資金を必要としますので、これからも募金運動を継続していかなければなりません。

今後ともなお一層のご指導、ご支援を賜わりますよう重ねてお願い申し上げます。

学校法人沖縄キリスト教学院理事長
沖縄キリスト教短期大学学長
大城 審

【一般】	津波古あい	5,000	宜保智美	5,000	与那ヨシ子	10,000	
<あ>	<と>		儀間明美	30,000			
秋永薰	5,000	徳里政松	5,000	東風平朝由	30,000	【会社】	
阿部さち	10,000	富川ハル子	30,000	新城久美	5,000	<お>	
新垣キミ	10,000	友寄隆吉	10,000	玉城正良	20,000	沖銀リース	100,000
<い>	友利完一	35,000	玉城成子	20,000	<た>		
伊敷和枝	50,000	<な>	仲村渠耐子	5,000	田端建設	35,000	
石原英一	5,000	中原祥子	20,000	28期生		<り>	
池田伯	10,000	仲間弘	5,000	山本佳代	10,000	琉球石油	100,000
池永倫明	10,000	中村準	50,000	吉岡実千代	5,000	琉球リース	35,000
伊藤みづ子	5,000	<こ>					
岩原盛勝	10,000	西崎美代	2,000	【学内】	【宗教】		
<う>	新田重清	10,000	<い>				
上原勝雄	5,000	<ひ>	伊志嶺博志	20,000	芦屋岩園教会	3,000	
<お>	平永輝	5,000	泉川美枝子	30,000	<う>		
大島孝一	10,000	<ふ>	<お>		上地教会(婦人会)	5,000	
大城清一	5,000	福地律子	20,000	大城実	105,000	<か>	
大森聰明	10,000	Fred Adaniya	47,692	大城宣武	75,000	春日部教会	10,000
大城トミ	5,000	<ま>	<か>		<き>		
<か>	松原武夫	10,000	我喜屋恵子	49,000	教区婦人会連合委員会	20,000	
嘉数二郎	5,000	<み>	<き>		行人坂教会	5,000	
鷺屋晴治	2,000	宮里政欣	20,000	金城重明	25,000	<し>	
神里信子	40,000	宮里毅	5,000	金城ミサヲ	10,000	CC - DOM	45,600
<き>	<や>		<<>		首里教会	30,000	
喜納カツメ	18,000	矢島信一	30,000	窪田紀子	10,000	<た>	
金城カツ	2,000	山城朝健	100,000	<l>	大学チャレンジ会	10,000	
<<>	山城洋子	50,000	島袋幸子	5,000	高原教会	20,000	
熊谷一綱	30,000	山田美代	10,000	島袋忠雄	20,000	<に>	
ルイ・デヴィッド・恵子	105,000	<よ>	下地玄毅	35,000	日本基督教団	45,600	
<こ>	吉田順英	5,000	<ち>		<ま>		
幸喜世松	5,000	<わ>	知花繁行	55,000	増田陽一	120,000	
広津信二郎	3,000	和田新之助	50,000	<と>	町田ベテル教会	3,000	
古城源徳	10,000		渡久地政順	45,000	真和志教会	37,713	
小西さい子	2,000	【同窓会】	<に>		<ゆ>		
<さ>	21期生		西銘純子	30,000	U M C	17,268	
座間味トミ子	10,000	島袋幸子	5,000	<は>	<り>		
<し>	24期生		島中宗一	35,000	Lyle W.Peterson	100,198	
島豊子	1,000	大城直子	10,000	<ひ>	【その他】		
島袋良夫	250,000	諸喜田薰	5,000	比嘉健次郎	36,000	<た>	
清水基	2,000	25期生		比嘉美代子	100,000	短大後援会	3,000,000
新里和子	10,000	垣花優子	10,000	<ほ>	<な>		
新里とみ	10,000	津嘉山恵子	10,000	外間きみ子	250,000	中里喜俊	50,000
新里正光	5,000	26期生		<ま>	<ほ>		
<た>	保久盛長正	10,000	前里光盛	25,000	保育科1年Cクラス	10,000	
谷川洋	5,000	宮里教子	20,000	<み>	<み>		
<ち>	屋良七重	5,000	宮元和子	10,000	みつる保育園	30,000	
知念ツル	10,000	27期生		<や>			
鎮西学院	5,000	伊波健二	35,000	山里恵子	50,000		
<つ>	上地章子	20,000	<よ>				
	川満直寿美	5,000	与儀勝彦	10,500			

There are several things which may seem strange to a student from another country. One is the way American students question, and sometimes disagree with, their teachers in class. At first, this may seem like disrespectful behavior, but often students learn that way. Another thing is that American students often reduce tension by joking and laughing at things. For students everywhere, learning becomes easier if they can learn to laugh at problems instead of worrying about them. Two other sources of difficulty may be American slang and the many idioms (two-word verbs) in English.

American colleges have many student activities which everyone can participate in. Most have a swimming pool and a gymnasium for people who enjoy sports. There are often ballgames, parties, concerts, movies, dances, and discos on the campus or close to it. Ideas about American college life sometimes come from movies which show students telling jokes, going to parties, and falling in love. However, these movies do not give the whole picture. Some Japanese students returning from studying in the States have mentioned that they were surprised at how hard American students studied.

Experiencing college life abroad can be a great challenge and it offers opportunities to grow in many ways. However, not all students can have this experience. Many who stay at home do a good job of learning English. Success in language learning anywhere depends a great deal on the strength of people's desire to learn and on their self-discipline in keeping up the continual oral practice needed. In addition, today books, magazines, newspapers, movies, television, and radio programs where English is used are readily available to people working on their English.

アメリカの大学生活

ヴィヴィアン・モーター

アメリカにおいて、学生は、教会関係などの私立の大学、或いは、公立の大学のどちらかを選択することができまます。公立の高等教育のシステムは、機会均等、立身出世の二つの理想に基づいています。ある学生には沢山のお金があり、一方、他の学生は、自分の家に住み、奨学金やアルバイトで、学費や生活費を賄っています。年齢も色々で、寮や家に住む独身者、結婚している者、また、子供までいる学生もいます。アメリカの学生というと、色々と異なる人種、国籍、宗教の人々を含み、また、難民や留学生もいます。ですから、人柄、興味、態度、意見、信条、習慣など、学生間でぶんぶん相違がみられたりします。

それら多種多様の人々との出会いは、新しい留学生にとって、とても豊かな経験となるでしょう。英語を話す環境の中で、共に学ぶというプロセスが、この中での、お互いを結びつけるきずなになっています。留学生は、よくホームスティーをし、アメリカの生活や習慣を学んだり、また、寮でのアメリカの人のルームメイトも、助けになったりします。他に英語上達を助けるものに、夏休みのホームスティー、或いは、就学時のフォスター・スクラシップ（里親制度のようなもの）などのプログラムがあります。

色々な教授法が、アメリカの大学で使われています。グループ研究をともなった大講義式の授業があり、また語学クラスなどは、普通少人数で行われ、ラボが使われます。あるコースでは暗記力が重要視され、また他のコースでは創造力が問われたりします。

アメリカにおいて、学生は、教会関係などの私立の大学、或いは、公立の大学のどちらかを選択することができまます。

実地調査や電話アンケートなども、授業活動の一部として行われます。時々学生は、視聴覚教科を用いたグループ発表をさせられます。教師は、試験よりレポートのほうを好んでいます。ですからタイプが上手にできると、役立ちます。

他国からの学生にとって、打ち解けずらいことが、いくつかあるでしょう。まず、アメリカの学生は、授業中先生に議論したり、反論したりします。初め、これを失礼なことと思われるでしょうが、時々学生は、このようにして学んで行きます。他に、アメリカの学生は、よく冗談を言ったり、笑ったりして緊張をやわらげます。どの国の学生にとっても、何か問題にぶつかった時、心配するよりはむしろ笑って対処する姿勢を身につけたほうが、学ぶことが楽になるでしょう。あと二つ、馴染みづらいものは、アメリカの俗語と沢山のイディオム（二語からなる動詞）です。

大学には沢山のクラブ活動、そしてプールや体育館などがあり、キャンパスやその近くでは、ダンスパーティーや映画など、色々な催し物があります。しかし、映画に出てくるような大学生活がすべてではありません。実際、日本人留学生は、アメリカ学生の熱心な勉強ぶりに驚かされて帰ってきます。

海外で学ぶことは、大きなチャレンジであり、また、色々な面で成長させてくれます。でも、すべての学生が経験できるわけではありませんし、海外に行かなくても、立派に英語を学んでいる人もいます。やはり、どこにいても、言語修得の秘訣は、学びたいという願望の強さ、そして、絶やさず口頭練習を続ける自己訓練によるでしょう。そして、それに加え、今日、マスメディアでの学びも、容易になっています。

（英語科・教授）
— 訳・グレイ恵子 —

(特集) 留学 ーさあ、あなたも自己発見を求めて異文化の世界へ！ー

本短大で、留学生を正式におくるようになってから久しくなる。毎年二十名近くの留学希望者を送っている。姉妹校であるホーブ・カレッジ（ミシガン州）、ハワイ・ロア・カレッジ（ハワイ州）をはじめ、フォスター・スクラシップ留学プログラム（全米各地及びカナダ）その他のプログラムで留学をする学生も増えてきており、最近では、留学が必ずしも英語科の学生とは限らなくなってきた。又、中には個人で留学先を見つけて留学をする学生もいる。そこで、これから何らかの形で留学を計画するであろう学生の皆様に、本短大の英語科・外国人教師による米国と英国の大学生活と、留学についてのアドバイス等を書いてもらつた。

又、昨年度留学生活を終えて帰国した英語科2年の山内ぞみさん・照屋美江さんのユニークな留学体験記を紹介したい。



COLLEGE LIFE IN THE UNITED STATES

VIVIAN MORTER

In the United States, students have a choice of applying to private colleges, many of which are church-related, or to colleges supported by public funds. The system of public higher education is based on equality of opportunity and on working one's way to the top. The rich and the poor often attend the same colleges. Some students have plenty of money, while others live at home and have scholarship grants and part-time jobs to help pay their expenses. The students are often of different ages. Some are single and live at home or in dormitories on the campus. Others are married and may have several children. American students include people of different races, nationalities, and religions, as well as refugees and students from other countries. They may have very different personalities, interests, attitudes, opinions, beliefs, and customs.

For a new foreign student, meeting such a wide variety of people can be a very enriching experience. The unifying bond is the process of learning together in an English-speaking environment. Often a foreign student has an American host family from whom he/she can learn much about life and customs there. There may also be an American roommate, who can be a big help. Another good opportunity to improve one's English comes during a homestay with an American family during the summer or during an academic year in programs such as the Foster Scholar one.

A number of teaching and learning methods are used in American colleges. There may be large lecture classes with smaller discussion groups. Language classes are usually small with tape listening done in a language laboratory. Memorization is important for some courses, while creativity is emphasized in others. Field trips into the community or telephone questionnaires may be part of the classwork. Sometimes students are asked to put on group class presentations, which often include audiovisual materials. Many teachers prefer having students write term papers to having them take examinations. Being a good typist helps in writing term papers.

The big advantage for the foreign student studying in England is that you are in an English environment, so the opportunity for improving your English is enormous. It is important to make use of the opportunity and not to find Japanese friends and live in a little Japanese island surrounded by a sea of English.

英国の高等教育

ディヴィッド・グレイ

英国人である私の目には、日本の教育システムは、アメリカのそれと似ているように思われます。英国のシステムは、かなり相違があり、呼び名などが違ったりします。例えば、英國で次のような会話を耳にすることがあるでしょう。「あなたは学生ですか。」「いいえ、まだ高校です。」"student"（学生）はカレッジや大学、或いは他の高等教育機関に学ぶものを指すのです。"graduate"（卒業する）にも特別な意味があります。英国では、文学士、理学士、教育学士などの学位を取得するという意味に使われます。学位は一~二の認可された機関を除いては、ほとんど大学で与えられています。私立の大学は英國ではなく、学位授与はすべて国で管理されています。もうひとつの例として、私は、OCJCに来るまでは、短期大学という所がどういう所なのかわからませんでした。英國には、これと類似した教育機関はないのです。

大学入学は、G.C.E.（一般教育履修証明試験）と呼ばれる、公立試験にあります。それには二つのレベルがあり、O・レベル（普通課程）は、15才から16才に受け、A・レベル（上級課程）はそれから二年後に受けます。一度にO・レベルを七教科以上とり、のちにA・レベル三教科をとるといったケースがよくあります。大学は、大抵、ある水準に達したA・レベル、そして、いくつか補助的にO・レベルを要求します。イギリスの学生にとって、高等教育は無料です。各地方の教育委員会から、各学生に "grants" と

呼ばれる奨学金が支給され、それは、授業料、生活費、本、備品、交通費をカバーします。過去においては、外国からの学生にも援助がありました。今や、それが削られて来ており、彼らにとって英國で勉強することは、いくぶんお金のかかることです。

外国人学生として英國の大学に入學したい場合は、三年間の学位コース、または、大学院がありますが、そのための英語能力評価基準として、ケンブリッジ大学の実力認定試験などがあります。これは、英國人ですら、なかなか合格することのできない難しい試験です。イギリスの英語学校などで、この試験のために準備することができます。オックスフォードやケンブリッジの大学町には、沢山の語学学校があり、また、ロンドンも同様です。多くが南東岸沿いにあり、ほとんどが私立です。

他にも、海外からの学生のために色々なコースを提供している学校があり、例えば、エデュケーション・カレッジと呼ばれる教員養成校で教育を学ぶこともできるでしょう。それらは、大抵、大学と結びつき、教育学士の授与も行っています。限られた英語でも学びたいという者には、専門学校などがあり、色々と興味あるコースを提供しています。

英國で学ぶ外国の学生にとって大きな利点は、何よりも、英語が話される環境にいるということです。ですから英語の実力を伸ばす機会は、非常に大きいです。日本人の友達を捜し、あたかも、英語の海に囲まれた、小さな日本語の島に住むようなことは避け、その機会を十二分に活かすことが大切です。（英語科・講師）

一訳 グレイ・恵子

本短大の姉妹校、ミシガン州にあるホーブカレッジで過ごした約八ヶ月は、勉強、勉強の苦しい毎日でした。なによりも精神的にとてもつらかったです。初めて一人（1個1人）になり、随分とまどいました。ホームシックとのたかい、自分の中にある「甘え」とのたたかい、自分の言動に対する責任の重さの痛感…。何度も失敗しました。何度も泣きました。おかげで大分、強くなりました。自分の意見というものをしっかりと持つようになりました。

四月の末、ホーブカレッジでの授業が終わるとすぐに私は、Washington May Term（ワシントンD・Cでの五月の集中講座）に参加するため、D.C.へ向かいました。このクラスはインタビューや通じて米国政府のしくみ、働き、国際的立場を学ぼうとするものです。米国上院・下院議員、各省、各委員会はもちろんのことイスラエル大使館から小さな宗教団体までインタビューした相

留学をとおして見えたもの
英語科 二年 山内のぞみ

手は幅広く、それぞれの分野の最新情報を提供してくれました。私も積極的に討論に加わりました。私が実した毎日でした。このクラスでの目標は、「マンタゴン」の The Department of the Army のインタビューの際、沖縄にある米軍基地について質問する。という事でした。新兵器の話に夢中になつてゐる中、質問するのは正直いつとも怖かったです。思い切つてとも怖かったです。思い切つて気持ちをぶつけました。しかし結局、うまくかわされてしましました。それぞれの国にはそれを立場、事情がありますが、その立場、事情がありますが、国民のために國が犠牲になつてゐる中、質問するのは正直いつも怖かったです。思い切つて気持ちをぶつけました。May Term終了後、かねてから夢だった「アメリカ大陸横断人旅」を決行しました。両親を説得するためと宿泊費を節約するために、遠い親せきや弟の知り合いの家にお世話になりました。New Yorkを皮切りに Philadelphia, Atlantic City, Grand Canyon, Las Vegas, Los Angeles, San Francisco, Hawaiiを経て九月半かけて回りました。その間、いろんな人に出会い、いろんな物を見てきました。バスで隣合せたメキシコの青年は私のために歌を歌ってくれました。ロスでタクシーを合乗りしました。ビジネスマンはイングリッシュである自分の家に招待してくれました。シスコを案内してくれた警察官、すばらしい夜景を見させてくれた高校



Higher Education In England

David Gray



(イギリスの語学学校)

To an outsider, it seems that the Japanese education system is similar to the American pattern. The English system, however, is somewhat different -- even the vocabulary is different. For example, in England you might hear this exchange: "Are you a student?" -- "No. I'm still at school." Student refers to someone at college or university, or at some other institute of higher education. We are not so free with the verb graduate, either, which in England means to obtain a degree, such as B.A., B.Sc. or B.Ed. A degree can be awarded only by a university or recognised establishment. There are no private universities in England; the awarding of degrees is controlled entirely by the State. Another example of the differences that exist is provided by the fact that I had no idea what a Junior College was until I came to OCJC. There is nothing quite like this in England.

University entrance depends largely on the results of a public examination called the General Certificate of Education (GCE). The Ordinary Level is taken at age fifteen or sixteen, and the Advanced Level is usually taken two years later. A child might take seven or more 'O' Levels at one sitting, then specialise in three subjects for 'A' Level. Universities usually require a certain standard at 'A' Level and some supporting 'O' Levels. A few universities offer their own entrance examination.

For English students, higher education is apparently free. Local education authorities provide "grants" for students, and these cover tuition, living expenses, books and school equipment and travel. In the past, foreign students have also been eligible for financial aid for education, but now it is rather expensive for students from abroad to study in England.

If, as a foreign student, you want to be accepted at an English university, you will need to enrol for a three-year degree course, or for a shorter post-graduate course, in which case your English ability must reach an acceptable standard. One measure of this standard is the Cambridge Certificate of Proficiency in English, which is an exam that only a small percentage of English native speakers could pass.

You could prepare for the Cambridge Proficiency test at an English language school. If you want to study at Oxford or Cambridge, there are plenty of language schools in both these university cities, and in London too. Many language schools are spread along the south-east coast in the towns that are nearest to Europe. Nearly all language schools are private.

There are colleges, too, which offer courses to students from overseas. It might be possible to study education at one of the teacher training colleges, which are usually called Colleges of Education. Most of these have links with universities and are able to offer B.Ed.(Bachelor of Education) degree courses. Or one of the Technical Colleges is likely to offer a course in something that would interest you, if you think you could manage it with limited English.

